

おごや ぐんせいち
尾小屋のミズバショウ群生地

種 別	小松市指定文化財 天然記念物
指定年月日	昭和44年11月1日
所在地	尾小屋町

ミズバショウはサトイモ科ミズバショウ属で、北海道および近畿以北の本州に分布する寒地性の多年生植物である。白い花のように見える部分は花ではなく、仏炎苞という葉が変化したものである。仏炎苞の中心の円柱状の部分は、多数の小さな花が集まった花序という部分である。葉は開花後に大きく成長し、1メートルほどに達する。

石川県では加賀地方の湿地を中心に分布するが、生息地が限られ、石川県のレッドデータブックでは準絶滅危惧に指定されている。

本件は標高約370メートル、大倉岳山腹にある沢浴いに所在する、約1,300平方メートルの湿地である。この湿地帯の上方には大倉岳の登山道が通っているため、周辺の樹木が伐採されている。結果として樹木が無く日当たりの良い、ミズバショウの生育に適した場所となった。

当地はミズバショウの群生地として県下で最も古くから知られ、山地の緩斜面に発達している湿地の代表的なものである。またミズバショウの生育地としては標高がやや低く、当地のようなミズバショウ分布の南限に近い地域では珍しい。

※現状では、滅失の危機にある。

